

令和6年度第3回

隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年8月19日(木) 13時30分～15時30分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者

1号委員	角脇 一夫	富田 信吾
2号委員	吉山 明利	吉田 輝美
3号委員	池田 明生	吉崎英一郎
4号委員	常角 辰夫	佐藤 格丈
	石田 千恵	

【事務局】

総務学校教育課長	金井 和昭
総務学校教育課総務係 係長	大上 達也
総務学校教育課総務係 企画幹	村尾 駿

4. 欠席者 なし

5. 報告事項 前回会議録の確認

6. 会議の経過 別紙のとおり
議録作成者 総務学校教育課 総務係 大上達也

別 紙（会議の経過）

【事務局】定刻より早いですが、本日出席予定の委員の皆様お集まりいただいておりますので、はじめに、出席者の確認をさせていただきます。委員及び事務局員は全員出席です。

【事務局】では委員長よろしくお願ひします。

1. 委員長あいさつ

【委員長】今年も、大変な猛暑になりました。委員の皆様大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。甲子園でも大社高校の大躍進がSNSでも取り上げられ、頑張っほしいものです。今日の第3回の検討委員会ですが、第2回の委員会では、吉田副委員長さんにご大変尽力いただき京都から大橋忠司先生にお越しいただき、「今の子供たちに身につけたい力」ということを中心にお話をいただきました。ユーモアを交えてわかりやすく、良い研修になったと思っています。今日は、隠岐の島町の小・中学校のあり方について、2点ほど協議させていただきます。

まず一点目は、隠岐の島町の子供たちがどんな子供に育てほしいかということです。検討委員会では隠岐の島町の目指す子供像をいろいろ意見交換して、共通のものにしていく意見交換ができればと思います。

それを踏まえて、2点目が、1学級あたりの望ましい児童生徒の数について検討して頂きたいです。なぜ1学級当たりの児童生徒数を検討していくかということ、これについては前回の最後のところで、私の方からお話しました。会議録にも載っておりますのでここでは割愛します。一応、3時半には本日の会議を終了したいと思います。途中でも結論が出ない場合は次回の会議に回したいと思っています。それでこの2点について話し合いが終わったら、今回か次回になるかわかりませんが、次の段階として今後の、6年後、あるいはその将来に向かって、隠岐の島町の小・中学校の設置はどうあればいいかということをご皆さんと一緒に協議していきたい。率直なご意見を頂きながらまとめていけたらと思っています。

2. 出席者及び前回会議録の確認

【委員長】それでは早速、出席者の確認と、前回の会議録の確認をお願いしたいとよろしくお願ひします。

【事務局】初めに欠席の確認ですけれども、名簿をご覧ください。あらかじめご連絡いただいている7番常角委員がお仕事の関係で、遅れての出席と聞いています。また、3番吉山委員が途中で退席する予定となっておりますのでご承知おきください。前回会議録の確認ですが、事前にお配りして修正があれば連絡をくださいということでしたが、本日までのところで連絡がございませんでした。確認頂いたということで、よろしいでしょうか。特に意見がないようですので、ホームページで共有させて頂きたいと思ひます。事務局からは以上です。

【委員長】何か質問とかありましたらお願ひします。事務局の方から資料について説明をお願いします。

【事務局】第3回隠岐の島町立小・中学校のあり方に関する検討委員会会議資料ということで1ページをご覧ください。前回の会議後半のところ委員の方から、各学校の部活動が知りたいということで、一覽でまとめてあります。ご覧のとおり西郷中学校ソフトテニスボール・バレーボール部の五

箇中学校バレーボールの男子のところ斜線が引いてあるのは、女子しか部活動がないということ。あと西郷中学校最後の下のところ※印記載してありますが、地域のクラブ加入者というところで卓球・水泳・サッカー・レスリング・硬式テニスクラブのところにも所属しているということがありますので、ご承知おきください。

【委員長】これについて何か質問ありますでしょうか。

【委員】西郷中学校の地域クラブ加入者ってあるが、部活ではないけどクラブでやってるってことですよ。学校としては部活扱いってことになるわけですか。帰宅して自由にやってるという状態ですか。

【事務局】自由にというか学校で設置している部活動には参加してないが、地域のクラブに加入して、地域で活動している。という形になるかと思います。

【委員】もう少し詳しく聞いてもいいですか。例えば卓球があるじゃないですか。これは西郷中学校の名前で中体連に出たりするってことですか。それともそのクラブの大会だけに出ているのか、中体連の大会にも西郷中学校で出でているかどうか。

【事務局】中体連の大会に西郷中学校が卓球で出ているかどうか確認させてください。あとは卓球の中体連以外の大会があると思います。それにはクラブとして出場していると思ってます。中体連の大会の部分は確認させてください。

【委員】人数は新生が入学して、部活の所属も決まった1年生から3年生までの間ということですか。

【事務局】はい。そのとおりです。

【委員長】それでは、これから隠岐の島町の子供たちがどんな子供に育ててほしいか。目指す子供像について皆さんのご意見をお願いしたいと思います。

町の教育大綱が令和3年度に策定されてます。それが令和7年度まで。それから隠岐の島町教育委員会でも学校教育の方針が設定されてます。それに加えて、各小学校中学校も、毎年度、新たに教育目標を作ってます。

今日は各小中学校の教育目標を、先ほど資料として一覧表で皆さんに配布してます。これも参考にしながら、検討委員会としての目指す子供像を共通理解した上で、1学級当たりの子供の数を検討していきたいと思います。このことについては1回目からいろいろ言ってますので、詳しいこと申しません。アからサまで一応例として挙げてますが、これ以外にまだこんな子供像があるんじゃないかということがありましたら、出していただきたいと思います。なければ、この中から皆さんで3点ほど選んで、どれが一番多いかをまとめて、それについて話を進めていきたいと思います。皆さんも3点ほど特にこういう子供に育ててほしいとかいうのがあれば、これ以外でもいいんですけど、3点ほど選んでほしいと思います。考える時間を10分間待ちますので、皆さんお願いします。

【事務局】この間に、先ほどの中体連のクラブ参加について説明報告させてください。基本的には部活ではなく、クラブとして活動してます。その中で、その中体連の大会に出るかどうかのところは、

複雑で、種目ごとに認められる場合と認められない場合があります。今現在では、卓球と水泳と硬式テニスは中体連の大会に参加できます。サッカーは認められていない。レスリングについては中体連の大会自体がないので、これも出れません。という状況でした。

【委員】ごめんなさい、聞き方がまずかったかもしれないが、これは外部委託ではないですよね。学校が外部委託で地域のクラブの方へ委託という形ではないですよね。

【事務局】はい。外部委託ではなく地域のクラブ活動です。

【委員長】意見を言って頂いて、集計してください。

【委員】教育目標は学習指導要領の中で定められているものかと思いましたが、一覧になっている資料を見て、各学校で教育目標がバラバラということは指導要領の中にも記載は多分されていなくて、それを踏まえた上で、各学校で学校の現状を踏まえて、こういう教育目標をたてられてるんだろかなというのは想像がつかます。どうなっていったるのかなという実情が知りたくて、聞いてみようと思いましたが、一発で出てきました。

【委員】教育基本法に、「知・徳・体」がトップに書いてあります。教育基本法、それをもとに指導要領があるので、まずそれが柱で、学校で「知・徳・体」について文言とか違うけど大体が「知・徳・体」について書いてあります。

【委員】教育基本法があるのでそれにのっかって、各学校設定はしている。これ以外にもたくさんあります。あるんだけど最初にやっぱり「知・徳・体」のことが書かれてあるので、いろんな言葉で各学校が定めている教育目標の中にどれかに当てはまるんじゃないですかね。全部入ってると思うんですね。

委員各位に順番にア～サの中から選ぶか、その他で意見を提案してもらう。

集計結果

ア. 心身ともに元気な子	2票
イ. 思いやりのある優しい子	1票
ウ. 自ら学び、学力を身につける子	7票
エ. 未来をたくましく生きていく子	4票
オ. 家族を大切にする子	1票
カ. 自分も友達も大切にする子	3票
キ. ふる里を愛する子	2票
ク. 郷土を担っていこうとする子	2票
ケ. 夢に向かって努力する子	3票
コ. スポーツに意欲をもってとりくむ子	0票
サ. 世界に向かってはばたこうとする子	1票
シ. その他（自分の考えを自分の言葉で表現できる子）	1票

【委員】クラス的人数が少ないと、どうしても優等生というわけではないけど、中心人物の生徒の意見に沿ってしまうってことがある。自分の考えがあっても、他の子の意見に合わせる感じの子が

結構いると思い「自分の考えを自分の言葉で表現できる子」に育ってほしいと思いました。

【委員長】この集計してみると「ウ」が一番多いですね。要は、自ら学び学力を身につけること。学校の一番の役割は学力を身につける。これが学校の一番の役割ですので。次は「エ」、未来をたくましく生きていく。これが2番目になってますね。3番目が、「カ」自分も友達も大切にすることになります。他にも、1人とか2人とか選んでいるものもあります。どれも大事なことだと思いますが我々の検討委員会としてこの3点を大事にしていて、今後、話し合いを進めているということになるわけですけどもどうでしょうか。

【副委員長】これからの子供たちは、生きていく上で本当に育ってほしいなというのは、それぞれ書いてあるところ全部が含まれると思います。前々回にこういうテーマをもらって、正直なところどんな子供に育ってほしいかというのは、こういう立場にありながら、学校、また家庭に任せておけばいいんだろうというところがあって、あまりそういうところで我々部外者が、部外者ではない方もおられますが、口を挟むことで、学校教育に茶々を入れてるんじゃないかなと思う事もあります。先ほど、その他の意見を言われたように、どんな子供に育ってほしいかという、まず1番最初に考えたのは、自分がここで18年間育って、島外に出て32年間、その後ここに戻って20年ぐらい経ちますが、自分が社会生活を送る中で困ったこと、こういうところが困ったんだぞ、その力をつけないかん所というところを、本当はここで発表しようと思ってたんです。そんな中で、やっぱり先ほどその他の意見があった「自分の考えを表現して人に伝える力」こそ非常に大切なことだと思います。自分のこれまでの生活で足りないところを、もう少しこれからの子供たちにも身につけていければなというふうに思っていたが、この前の研修を受けて、昭和の教育はもう駄目なのかなと思った。本当に我々は何を考えていったらいいのかなと悩む。そこについてはしっかりと学校の中で教育の中で子供を育てていってもらえればなというふうには思います。

【委員長】先般の全国の学力テストで、結果が出てましたが、基礎的な知識、それから思考力・判断力の点を比べたら、思考力・判断力が、かなり点からすると、基礎的な知識は70点。15点ぐらい低いのが思考力・判断力・表現力。その結果として文科省が、児童や生徒が自分の考えを説明し合う授業を行うなど、思考力・判断力・表現力を育てていく必要があるというふうなことを文科省の担当者は評価してました。それを思うと、その他の意見を言われた「自分の考えを自分の言葉で表現できる子」というのは、今一番大事にしなくてはいけない内容だと思います。

【委員】3つに絞らなくても、ご意見の多かった4点とその他の意見を尊重するのはどうでしょうか。

【委員長】検討委員会としては今のご意見も参考にしながら、「自ら学び学力を身につける子」「未来をたくましく生きていく子」「自分も友達も大切にすること」「夢に向かって努力する子」それと、最後に「自分の考えを自分の言葉で表現できる子」このようなことを検討委員会として目指す隠岐の島町の子供像として設定したらどうでしょうか。

【委員各位】はい。

【委員長】ここで10分間の休憩にはいりますが、その前に事務局、次回の日程調整をお願いします。

事務局日程提案

●9月30日 月曜日、午後1時30分から、303会議室

【委員長】それでは休憩に入ります。

— 休 憩 —

【委員長】先ほどは、目指す子供像として5点ほどを設定していただきました。ありがとうございました。こんな子供を育てるために1学級当たりの人数について、これから話し合いをしていきたいと思えます。前回、参考資料を配りましたけれども、1学級当たりの子供の数、現行の考え方は1学級当たりの人数は、小学校中学校ともに10人というふうに、2重枠で囲んでますが、その下に、今回の検討委員会として、どうするか。小学校10人から25人まで以上という表現で書いてます。中学校10人以上から30人以上、この中で、まず小学校の方からどのぐらいの人数が望ましいかということ、また皆さんで考えてほしいと思えます。

それともう1つの資料は、「学校規模による特性」ということでまとめてありますけど、これも参考にしながら小学校・中学校の1学級当たりの人数についてお考えを述べていただきたいと思えます。まず小学校から検討していきたいと思えますが、この中で適正な人数を皆さんそれぞれでちょっと選んでください。

【委員】この人数ですが、望ましいってというのは、この系の話ではよく聞きますが、絵に描いた餅でしかないですね。

【委員長】そうではないです。

【委員】いやそうじゃないですか。20人に設定しても20人以下のところだってどうにかなってるし。

【委員長】基準として設定しないと、将来は学校の設置に結びつけて考えるわけだから、基準として検討しないといけない。設定した人数以上にならないこともあると思えます。ただ、この検討委員会としてある程度人数を設定しておかないと話が進まない。

【委員】根拠のある人数になりますか。

【委員長】そうしないといけないんですよ。1人でも2人でもいいかっていうことになるから、設定をしてこれを根拠として、学校の設置を考えていくということです。ただ、実際には検討委員会でこのくらいは必要だということになっても、学校の設置については地域の実情もありますし、昔からの伝統もあるので、それは今後、地域の意見を聞きながら、まとめていくわけですが、この検討委員会としてある程度基準を設けておかないと話が進まない。何人でもいいことにはならない。

【委員】さっき、絵に描いた餅という話があったけど、決してそんなことはないと思えます。この人数のことも検討して、実際そうなるかどうかは別だが。今思っているのは、人数が少なくなったから

この後、どこの学校を一緒にしようとしたら、また5年か6年たったら、また同じことになる。だから発想を変えてもいいではないかと。例えば20人にするには、この2つの学校で20人にならないのであれば、3つ、4つであつたら20人になる。ただ、そうなるかどうかは委員長も言ったように地域の実情いろんなことがあると思います。いろんなことがあるが、考え方はいろいろあるのではないか。ただそれが実現するかどうかは別ですが。何が何でも20人ではなくて、子供たちがどう育つには20人当たりベストじゃないかという発想。おそらく委員長がまたご指名されるでしょうから、皆さんがどれを選ぶかは別としても、自分ならやっぱり20人ぐらいは必要かなど。様々な意見を話し合っていきたい。1人や2人で話し合うのではなく、この前も大橋先生が来られて、講演を受けたとき、グループになって話し合いをして、そういう意見があるのか、なるほどと考えることが出来た。でも1人2人では意見も出ないし、ましてや先ほど他の委員も言われた「特定の限られた人間の中では、子供たちも、どうせ僕はもうあの方が言ったらもうそれだ」というような人間、本当はそれではいけないわけだが、そうなりがちである。いろんなことを検討していけばいいが、絵に描いた餅というふうに一言で片付けてしまうっていうのはちょっと残念な気がしました。

【委員】その考え方の違いや方向性の違い、まさにそのことを言って、ずっとそうだったんです。今まで根拠のない人数を設定して、配置計画をしてという流れがずっと来てたわけですよ。

【委員】そこはちょっとわからないですけど。

【委員】規模適正化検討委員会が人数出してそれに対しての適正配置っていうのがあって、流れがそういう流れだったんです。今この流れと一緒になんですよ。考え方の転換ではないが、子供の数というのはもうここで話すことでもないし、教育委員会で話すことでもないし。これはもう多分、町の政策だと思うんです。人口減少とかっていうのは。この人数でどういう教育環境ができるかっていう話をした方が、いいと思う。ていう考え方の違いです。なので、絵に描いた餅じゃないかって言ったらそういうことになります。

【委員】この環境というのが現状ということなんですかね。

【委員】現状では少なくなっていく中で足りないもの今、五つでした。それにそぐったように、教材じゃないですけど与えていくにはどういうふうにするのかっていうのが問題点であって、人数が問題点でもないし。

【委員】僕はその人数は大事なポイントじゃないかなと思いますけどね。

【委員】学校の人数ですか。

【委員】はい。それは子供の立場からしても、この人数というのはすごい大事なポイント。ところが、例えば、すごい山間部とか、離島でも島前のように一緒にするといっても、それはまた島後とは違うけど、だけど一緒になれる環境があるのに、人数が少ないから、もうその中の環境で考えていきましょうというのは、違うのではないかと思います。現職の校長先生の意見も聞きたいが、現場にいる管理職や教員はね、そういうことが言えないです。人数は少ないからできないんじゃない、この人

数でやるんだという、何が何でもやらないといけないと思って使命感を持ってやってるんですよ。だけど、退職した人間は、本当はそうではない。本当は人数が多かったらもっともってこんなことができるよとか。子の人数をこの狭い学校だけで考えましょうとかいうよりも本当はこのくらい的人数がいたほうが良いというのはあります。子供一人一人の思いや、その他の意見で保護者としての意見もあったと思うし、地域からも色々な意見が出てくるかもしれませんが、確かに地域からなくなるってことは寂しいことだし。でも、子供を主体にものを考えていきたいです。布施の子供は、南中に行つてのびのびやっているといます。

【委員】 それ根拠はなんですか。

【委員】 いや根拠があるわけではないですが、わたしも中学校まで隠岐で育つて、隠岐から出たとき物怖じしたけども、救われた部分がありました。これは何かというと、小学校からずっと同じメンバーで育つて、そこから解放されたと思ったこともあります。すごく隠岐から出て、解放されてのびのび生活できて、それで大人になって帰ってきたら、同級生に声をかけられる。ものすごい仲のいい同級生もいれば、挨拶程度で終わる同級生もいますが。ずっと同じメンバーで生活すると上下関係もできる。小さい学校でもいじめはありますよ。小さいクラスでいじめがあったら、もう帰ってこれない。大きい学級・学校だと、クラス替えがあったり、違う友達を見つけたりとか。大きな学校でも弊害はありますけど、やっぱり子供を主体に考えたい。せつかくの委員になったんだしたら、何か子供のモヤモヤを取り外してやれるような、何かそういう会議になったらいいなと思ってます。すいません、ちょっと言い過ぎました。

【委員】 まあ、色々な考えがありますので。

【委員長】 根拠、根拠といいますがどうということですか。

【委員】 結局、前回、統廃合をしないために10人に定めたみたいな回答だったと思いますが、結局統廃合の話が出たりするわけじゃないですか。今の時点じゃないですよ。

【委員長】 平成28年の検討委員会で、10人ということが設定された。統廃合しない学校作り。それは、その前の21年か22年に大規模な統廃合が行われた。飯田・大久が一緒になったり、磯が一緒になったり。北小学校も布施と中村が一緒になりました。そういうのがあったばかりだから、28年の段階では、10人に設定すれば統合する必要があまりないが、20人に設定すると統合する必要性が出てくる可能性がある。そのとき私はいないので、よくわからないんだけど、前回統合して間もないからというのもあったのではないかと思います。現時点で、その頃と比べると、今後6年後、あるいはその将来に向かって、児童生徒数はますます減っていくわけです。減っていった中で、本当に1学級当たり3人とか5人、あるいは1人の学級で、それで子供のためになつてくるかどうか。少ない学級の良さもありますが、しかし、ある程度的人数がいた方が、子供が将来成長していく上で、先ほどのたくましさとか表現力とか、いろんな面である程度的人数がクラスにいると保障ができる。これが根拠なんですよ。3人とか5人の学級で保障できないことがある程度20人あるいは15人になると保障ができるということがある。運動でもそうだと思います。運動ばかりが教育ではありませんが、子供にとっては部活とか体育の授業というのは、1日の生活の中で大変楽しみにしてることです。

その際に、3人とか5人の学級で何ができるかという、制限されるわけです。野球がやりたい。サッカーがやりたい。バレーボールがやりたい。そういう運動が小さいときから経験ができないから、中学校行ってもその良さがわからない。だから、ある程度の人数を我々は検討委員会でも考えていくことが必要じゃないかと思います。

【委員】 どういう子供に育てていきたいなという話がまとまって、人数の話で今ちょっとわからないけど、その10人という数字が問題なのか、そもそも人数の話をする事自体が問題なのかどちらなんでしょう。

【委員】 人数の話をする事です。ただ、必要ですよ。だから、例えば1人だったらもう無理だとかという話ならわかるんですよ。5人が良いなみたいな話をするので、10人いたら良いよねとか、20人いたら良いよね、みたいな話になるのです。

【委員長】 その所の所は、例えば15人とか20人に1学級の数が増えると、小規模校でできないことができるようなことがあるのです。

【委員】 すいません。口挟んで申し訳ないですが、メリットデメリットって両方あるんですよ。どっちを取るかだけなんで。

【委員長】 どっちを取るかではないと思う。やっぱり学校として、集団生活で子供たちが伸びることがいっぱいあるわけで、そこらを何か保障していくことが必要だと思う。1人でも良いんじゃないか、3人でも良いんじゃないかというのは、ちょっと無責任だ。

【委員】 保証できますか。

【委員長】 だから、できるようなことを考えていくということです。できるか、できないかじゃなくて、検討していくのが我々の役割なんです。もういいわ、では駄目なんです。

【委員】 いいわとは思ってないんですよ。保障って言われますけど、そういうのを担保できるっておっしゃいますけどできますか。

【委員長】 少なくとも極小規模よりは担保できると思います。

【委員】 極小規模、それって誰が選ぶんですかね。

【委員長】 最終的には親です。ただ、設置は、町がするので、その中で親がどこへ行くか選べばいいんです。子供の教育権は親にありますから。町でも、担任でもない。親が教育の責任者である。

【委員】 この間大橋先生の話もありましたが、話をしている時に排除することは望ましくないというか、そういう方法は間違いだと思う。みたいなことを言われてたと思います。20人じゃないと駄目だという話をする、その小規模校というのは排除される形になるのではないかと思う。

【委員長】排除とは思ってはいません。

【委員】いや、その親の思っているのは、排除になるわけじゃないですか。親が小規模校を望むことあると思います。そうすると、今回、人数の話をする小規模校に通わせたい親の考えを排除してしまうと思います。

【委員長】極端な例ですよ。

【委員】極端な例ですが、考えないといけないし、設置は町なので、今後の隠岐の島町の、要は持続可能な状況に教育インフラってものを考えなきゃいけないと思う。そのときに、人数はもう少なくなっている。人数がこうなっている現状ってものはもう資料出てきてるわけじゃないですか。そんな中で人数の何人かっていうのが、正しい議論なのかなっていうのをずっと思っていました。

【委員長】例えば、都万小学校では12ページ（第1回検討委員会資料）にある、令和12年に1年生が2人とか2年生が3人。3、4年生が4人に。5年後にそういう状況で、理想的な教育というと抽象的になりますが、本当に子供のためにそれがいいのかどうか、教育条件・教育環境として、そういう学級が望ましい教育環境として言えるかどうか。選ぶのは親だけど、行政の立場とか、あるいは我々みたいな一町民の検討委員として、本当にそれでいいのか真剣に考える必要がある。全部複式の学級になってしまう。複式が悪いとは言わないけど西郷小学校で、できる教育が都万ではできなくなる。ある程度できることが限られてくる。例えば表現力とか、みんなで話し合ったりするときに、それが十分にできない状況があると思う。大規模校でできることが小規模校で、できないことがあるということ。北小で言うと令和9年は5・6年がない。その時、北小は4年生が最高学年なんです。

【委員】それこそ親の判断で校区外に出たっていう状況なので、それは別にどうこう言えるものでもないと思うんです。

【委員長】ただここにいる子供さんがどうなのかな。どんな状況で教育を受けられるのかなと。そういう心配してはいけないのかもしれないが、そういう危惧はあるんです。大変だなと子供も学校も。工夫してるだろうけど大変だなと思います。

【委員】すみません、議論じゃないですね。

【委員】10人という設定は、今回はどれだけの責任があるかわかりませんが、統廃合の対象というような考えで10人にしたとしたら間違いじゃないかなと思います。だから今日ここで何人かというのを委員長が言っているのは、本来の学校のあるべき姿でどの位の人数がいたら理想的なんだろうなっていう。数字を出すだけ。統廃合のために、人数で線を引くというのではなくて。

【委員】それであればわかりますが、事実なので。結果、学校配置ってものを考えるのに避けては通れない道だったんですよ。もう最終的にこの学校配置のところが、問題になる。これ進めていっても多分問題にはなると思うんですけど、逆の考え方はできないかっていうので一例を出しただけで。だから人数がドカンとある。例えば、20人のところと10人のところがあって、完全にこの10人

の子供たちの成長が劣っているというような根拠があれば20人じゃないと駄目だよなって、というような話は全然あると思うんですけど。

【委員長】劣ってるとかは、言えないないです。

【委員】僕最初に質問しましたが、部活動調べの数に1年生が入ってますかと。例えばね、五箇中のバレーボール部に12人、入ってきた1年生はトスもできない。それで野球部をみると、7人。次の1年生が入ってくるのを待ってるみたい。それで結局、合同チームで出てます。同チームならいいかという話でね。合同チームを教育委員会が認めてると思いますが、そういう問題じゃなくて。根本的にどうなんだと。いつもいつも合同チームで出場するのであれば、もっと違う発想はないのかと思う。野球やりたい子が、二つの学校を一緒にしたら、三つ学校一緒にしたらどうなるかと。これから部活が地域移行するなど、どうなるか不透明なところもありますが、それにしても現状だと、今4つある学校が、個人的には2つぐらいになれば、部活が3、4つあって、子供もいろんな選択ができる。ましてやそこに文化部があると運動の苦手な子も選択肢が広がる。西郷中学校は吹奏楽部があるけど、楽器にお金がかかるので、西郷南中学校あたりだったら、美術部にしたらお金をかけずに運営できるとかの発想が出て、人数が多いといろんな発想が出てくると思う。ところが小さい上に、部活に全員加入しないといけないとか、五箇はいつもチームが作れるかとかある。だから、やっぱり子供を主体に考えましょう。大人がいろんな条件を整備して、合同チームで出場するとか言ってるけど。今、校区の学校にはない部活動したくて他の学校に通ってる子供はいませんか。

【事務局】います。

【委員】部活動がしたいから、校区外から西郷中学校に来るとかです。要は、それもアリだと思いますが、もっと整備して、スクールバスで通えるようにできませんかね。現在、スクールバスは出ませんから、親さんが多分送り迎えしておられると思うんです。だったら、まだ30人だからやれるという問題ではなくて、もっと違う発想で考えていきたいですね。もう極論言ってますが、すみません。やっぱり子供の置かれた状況というのは、もっと可能性がある。いろんなことがあるから配慮してやれないかなと思ったりしてます。

【委員長】ありがとうございました。1学級当たりの人数を今話題にするのは、隠岐の島町の子供たちにとって純粋に、良い教育環境を設定したい。そのための検討委員会であるということだと思います。子供たちの将来にわたって、どういう学校の教育環境がいいかと検討するために、そのためには1学級当たりの人数は、我々としては、このぐらいの人数が必要かということは、設定しておく必要がある。これに基づいて、これから教育委員会の方で各地域の意見を聞いていくわけでございます。必ずしも、この人数、例えば15人とか20人とかを設定して、これに基づいて学校を設置するというわけではない。これからも地域の意見を大事にしながら検討していくということで、ただ我々としてはある程度目安を作っておかないと、話も進まない。そのための学級の人数の設定という話になる。前にも言いましたが、子供たちの学校生活は1日の生活を見るとほとんど横の繋がりで、5年なら5年生のクラスで、2年なら2年生のクラスで、朝から晩まで同じ生活をしているわけ。そうした場合に1学級の人数がとっても大事だと思います。

【委員】隠岐の島町PTA連合会をとおして各学校に、この質問を聞いてみました。詳しくは言えませんが、先生とか保護者代表さんの意見が出ました。その中でも、委員長と同じような答えが返ってきてます。やっぱりスケール、そここのところは、保護者さんかなり意識しているというふうには思いました。

【委員長】そうですね。わかりました。やっぱりある程度の人数を求めている声があるのもわかりました。他どうですか。

【委員】人間関係のことです。さっきもお話でありましたが、悪い状況にあったときに、逃げ場がないがないという意見があったり、人間関係をリセットできないとかあったりと様々な行動を行うのに、やっぱり少ないと制限がかかるといったような言葉はあがってますね。

【委員長】他の委員の方はどうでしょうか。ざっくばらんにこうして話すのも大事ですから。

【委員】私個人の考えとしては、中学校2校、小学校2校いいと思ってます。極論なんですけど。中学3年生の子どもが9人しかクラスになくて、毎月のように行事がある。毎月のように、その3年生の9人が同じようにやっている。クラスが多ければ負担が少なく済むと思います。役割が、その都度その都度変わっていくから。子供は、ストレスじゃないですけど、毎月のように行事があって、追い込まれて、それを見てると、学校が大きい西郷中学校とか西郷南中学校の方が私はすごい羨ましい。人数も多いし、その都度、役割も変わっていけるだろうし。また、いろんな友達もできると思って。やっぱり小学校・保育園からずっと同じメンバーだと、もう言わずともわかる関係で他の子はこういうふう考えてる、こんな表情してるからこんなふうに思ってるんだなって話さなくてもわかる関係なんです。私はそれがすごい嫌で、それはある意味コミュニケーションじゃないわけです。でも大きい学校だといろんな子もいるから、いろんな話をしてコミュニケーションをとったりとかして自分の本当に気の合う友達にできるだろうし、今は気の合わない子も人数が少ないから、それなりに付き合っていないといけないんですよ。なので私はデメリットしかないって思ってるので、私は大きい学校の方がいいと思う。

【委員】難しい話ですね。子どもたちに聞いてみたいところもあります。全部適正というか、数は決めていた方が良くと思う。今後話を進めるためにも。

【委員長】以前勤務した学校である学級が女の子3人だった。女の子2人はある程度運動もでき、それなりに勉強ができる。あと1人の子供が、運動が苦手で、2人がいつも一緒にいて、1人が仲間外れみたいな感じ。この1人の子が2人に飛び込んで行けない状況でした。この子を声かけたり一緒に遊んだり話したりすればいいんだけど、そこまでまだ子供たちに余裕がない。そういう中がずっと中学生まで続いて行って、かなり苦しい思いをされたという状況もあります。3人は結構難しい。3人でも4人でも、そういう小規模校でそういうことも起こりがちな面がある。授業だけじゃなくて、そういう子供たちの1日の生活の中で人間関係とか、部活動とか、いろんな中で問題点もあるということなんです。

【委員】関係ない話かもしれないですけど、第1回検討委員会の資料に保護者にアンケートをした回

答があった。平成28年の時のですかね。質問に、「クラスで満足するかどうか。」あれを見ると西郷小学校とか大きい学校の保護者さんは、大きい学校しか経験したことないから、「現状のままで良い」という回答は当たり前のことなんです。なので、大きい学校の保護者さんは対象にせず小規模の学校の保護者さんを対象にしたアンケートを実施すれば現状がわかると思う。大きく学校・小さい学校で分けてアンケートをした方が良いと思う。それにこの人数の事を加えてアンケートを試みたら、保護者さんがどんなふうに考えてるのかがわかるかなと思うんですけど。ここで話すのも大事なんですけど、大きい学校の保護者さん、小さい学校の保護者さんのことはあまりわかりませんよね。実情というか。

【委員長】今アンケートの話が出てますけど必要であればまたアンケートも考えていかないといけない。必要ということになればまたアンケートをとってみる必要がある。ありがとうございます。

【委員】1学級当たりの人数に関しては、生まれも育ちも西郷小・中学校なので、先ほどおっしゃるように30人で当たり前の環境なんで、人数が少ないとどういうことがあるかというのはちょっとイメージしにくいのが正直なところなんです。ちょっとこの切り口を変えて話してみると、今、その数の大きい少ないってというのがテーマになって話をしてるじゃないですか。それは多ければ多い方でいいこともあるし、少なければ少ないいいこともあると思います。今さっきPTAのアンケート中でいろいろ書いておられるんですよね。なるほどと思って僕も見させてもらったんですけど、1学年1学級が2人とかになるとそれはかなり極端かもしれませんが、やっぱりある程度人数が多い方が良いなど、感じています。視野を少し広げると、今、日本の中で、東京というか関東に人口が集中してるじゃないですか。それ以外はだんだん過疎化が進んで来るとそれを隠岐の島町の中でも比べてみると西郷に人が集まっている。西郷以外のところで人口が減ってるというか、郡部から西郷小・西郷中に通っておられる生徒さんも多分おられると思うんですけど、それが行き着いたら、もうそれこそ郡部は人が住まなくなって、今大事にずっと続けられてる地域のイベントとかお祭りとかも維持できなくなると思います。今話してる問題も僕は極論人口問題だと思う。皆さんも多分同じ認識だと思うんですけども。ある程度隠岐の島町の中で、人口1万人をベースで考えているんですかね。向こう20年とか30年後、考え方を180度ひっくり返して人口を増やせばいいんじゃないかと思うんです。そのためにどういうふうなものが必要かと考えると、子供がちょっと増えてるところで言うと、加茂地区が増えてると思うんです。それは何でという、水産会社さんが地区にあるというのが大きい理由の一つかなと思ってます。この小学校・中学校に通う子供たちがいる世代というのは30・40歳ぐらいの人が多くですかね。働き盛りの人たちが生活できるような、その地域環境作りを、やっぱり目指すべきじゃないかと僕は思ってます。経済的活動が各地域でできることによって、保護者さんがそこで安定して生活できて子供たちを育てる環境が作れるんじゃないかなと思ってます。この検討委員会がどういう結論、方向を出すかはわかりませんが、委員の1人の意見として、町もそういうふうを目指してるかもしれませんが、やっぱり人口維持するために、学校を維持するために、この人口問題をこういうふうに取り組んでくれとか、地域にもうちょっと企業を誘致してくれだとか、そういう何かちょっと変わったチャンネルでまた提案させてもらえたらなと僕は思っています。高校はこの島内では普通高校・水産高校とあと特別支援学校があり、計3校がありますが、選択肢は生徒さん・保護者さんもいろいろ考えられると思います。やっぱりある程度その義務教育の範囲内は自分が生まれ育った地域で育てたいって思われる保護者さんもおられるでしょうし、決して地元のことが嫌いってことはないとは思っています。やっぱりこう

いう委員会の中でも、もっと町長含め、教育長を含め、人口問題には向かっていかなきゃなんない時代だと思います。委員の1人として意見として述べさせてもらいました。

【委員長】一番問題なのは人口減少ですから、それが元になって子供の数も減っていく。そこを何とか解消できれば良いと思うが、非常に難しい問題です。町全体で取り組んでいくことであり、町政であり。

【委員】この地域をゆくゆく担っていく子供たちを育てるのが我々の仕事です。だから、そこら辺は声を大にして、この検討委員会は教育関係出身の方が多くはすけれども、やっぱり教育と地域産業というのが、行政も含めて学校も含めて一緒になって立ち向かわないと解決できる問題じゃないと思います。この人口問題というのは、40代がバリバリで働いてる世代ですから少し我々の話も聞いていただきたいというふうに思ってます。ありがとうございました。

【委員長】美保関の小学校に勤めたことがありますけど、30年ぐらい前ですが、小学校6校ありました。中学校は2校。それを今から15年ぐらい前に小学校1校にした。美保関半島の小学校6校を1校にして、まだ、そのときは町村合併なしで美保関町独自だったんです。それで中学校も1校にしてスクールバスで、30・40分もかけて通学するなど、大規模な学校統合がされました。保護者がどう思っているかわかりませんが、子供たちはある程度の人数の中でのびのびやってるんじゃないかなっていう気はしてはします。奥出雲町が今やってますよね。横田地域・仁多地域で、中学校・小学校1校ずつまとめようとして、仁多も横田も小学校が6校から7校あります。これ1校にまとめようと奥出雲町は全体で中学校2校、小学校1校というふうにまとめようとしています。もうそろそろ完成するんじゃないか。それだけ少人数の学校がいろんな問題を抱えていて、一つにしようという、そういう方向になってきていると思います。そういう方向だから隠岐の島町をどうしようというわけではないんですけど。全国的にそういう大規模に統合するケース増えてきているような気がしております。

一応小学校1学級当たりの人数の目安をつけておいて、次の段階で次の会議でまた議論したらどうかと思いますが。小学校、今は10人が望ましいとなっております。

【委員】文科省の手引きに、適正化を提言する上で第1章、1番最初のところに「児童生徒が集団の中で多様な環境対応な考えに触れ認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて、1人1人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特色、小中学校では一定の集団規模が確保されるされていることが望ましいものと考えられます。」とあります。この集団規模ということ、この検討委員会では人数と置き換えて話していると解釈したらいいですよ。

【委員長】そういうふうな解釈です。

【委員】だからその人数人数と言いますが、要は子供1人1人を伸ばしたり、さっきお話があったことだったり、そういうことをするためには何人のクラスが望ましいかっていうことで、この人数の判断をするということですよ。さっきおっしゃった、統廃合とかそういう考えもありますけど、そうではなくて。共通認識を持っておきたいです。

【副委員長】それこそ先ほどお話した、我々はこの検討委員会で決めた、目指す子供像を、実現に向けてのどれだけの子供がいれば良いかという、そのところの部分での協議だと思えます。その中で切磋琢磨という言葉も出ましたけども、指導要領の中にはしっかりとそういう言葉も載ってると思えます。子供たちが、一つのクラス一つの学校で、いい意味での競争力競争心を働かせながら、この前の研修会でも出てましたけども多様性という言葉もありました。自分の言葉で自分の意見、自分の考えが表現できるような子供を作るためには、どのくらいの程度の人数が必要かなということ、そう考えればある程度、人数は出てくるんじゃないかなと思えますけれども。

【委員長】ありがとうございました。ある程度、目安としての人数を設定して、今日終わりたいと思います。皆さんどうでしょうか。

委員の意見としては15人から20人ぐらい、または、20人ぐらいという意見が多数。

【委員長】20人以上というご意見が多いんですけども、よろしいでしょうか。基本のところ、小学校20人ぐらいの学級が望ましい設定をしておきたいと思えます。次回、中学校の方も検討したいと思います。よろしいでしょうか。

意見なし。

【委員長】本日は以上で終了します。

全てを終了した。